

医学教育モデル・コア・コンピテンシーに基づくH31カリキュラム強化策

山梨大学医学部医学科ディプロマ・ポリシー		医学教育モデル・コア・コンピテンシー(2017.5.26 全国医学部長病院長会議) 改変		対応コアカリ(H28)	主なユニット(例)	ユニットの概要	H31カリキュラム強化策	
＜知識・理解＞								
1	医療基盤力	医学・医療において基盤となる知識を体系的に身に付け、その知識体系を文化・社会等の学際分野と関連付けて理解し、医学・医療の変化に対応し、新規課題に応用できます。	(1)基礎医学	基礎医学の知識を、疾患の病因・病態・症候等の理解に応用できる。	A-2医学知識と問題対応能力	全てのユニット	・教育方法について、既存の実習棟A2階テュートリアル室(20室)に加え、第2総合研究棟4階のテュートリアル(16室)も活用し、アクティブ・ラーニングを積極的に推進する。 ・実習・演習型ユニットの評価方法について、Moodle等を用いたルーブリック評価(形成的評価)を今後も推進する。	
			(2)社会医学	社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる。				
			(3)臨床医学	高頻度または重要な疾患について、疫学・病因・病理・病態・症候・診断・治療・予後の知識を修得し、臨床推論に基づく適切な診療ができる。エビデンスを吟味し臨床判断に応用できる。				
			(4)行動科学	人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応と医療を提供できる。		行動科学 行動医学テュートリアル 生命医科学テュートリアル	人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応と医療提供について学修する。 ・行動科学・行動医学テュートリアル・生命医科学テュートリアルを通じて、基礎から臨床に渡る行動医学教育の充実を図る。	
2	地域・国際対応力	・地域の保健・医療・福祉・介護及び行政等との連携を理解し、地域における健康の増進と疾病の予防・治療に貢献できる基本的な考え方を身に付けています。 ・医療環境や公衆衛生について国際的視野を持ち、人類・医学の歴史・社会・自然に関する知識を広く身に付け、医師の社会的役割の変化や国際化に対応できます。	(1)予防医学と健康増進	社会と健康・疾病の関係を理解し、疾病予防や健康増進の活動に参加する。	A-7社会における医療の実践	医学入門	保健・医療・介護・福祉の現場を学修する。	・「医学入門」において、高齢者施設体験訪問実習を行い、保健・介護・福祉の現場を学修する機会を継続して提供する。 ・「地域医療実習」や「社会医学課題実習」において、H28年度診療報酬改訂にも反映された地域包括ケアシステムについての学修機会を継続して提供する。 ・「臨床実習2」において、学外施設での学修の機会を継続して提供する。 ・地域の医院、クリニックへ、学生教育への協力を継続して呼びかける。 ・H30年度より、医学科2年生を対象としたネイティブ外国人教員による「All English」を開講した。H31年度より医学科2、3年生に拡大する。 ・医学科2、3年生は、「All English」及び「医学英語1」を、医学科4、5年生は「医学英語2」を履修し、1年生から5年生まで複数年に渡って英語に触れる機会を継続して提供する。 ・海外の”student researcher”や臨床実習見学生受入(Clinical Clerkship Program)を継続して行う。 ・「自己開発コース」において、海外研究活動・海外社会活動を継続して推進する。
			(2)地域医療	地域社会における地域包括ケア・救急医療・在宅医療・健康増進活動等を理解し、その活動に参加する。		医療環境論	人間の病と健康をめぐるさまざまな問題を総合的に捉える視点と態度を学修する。	
			(3)医療・介護・福祉制度	地域の保健・医療・介護・福祉の制度とシステムを理解し、自身の活動現場においてその知識を活用できる。		環境・予防医学	環境による影響に基づく疾患を学修する。	
			(4)保険診療・医療経済	国民皆保険の意義を理解し、保険診療に関する法令に従って、医療の経済性に配慮しながら診療を行うことができる。		衛生統計・保健医療学	学校保健、精神保健福祉について学修する。	
			(5)災害医療	災害医療の特殊性とそれに関する組織(DMAT・JMAT等)についての知識を修得し、災害発生時には適切に行動して社会や地域に貢献できる。		生活習慣病・疫学・地域医療	医療政策やへき地医療について学修する。	
			(6)国際貢献	国際人としての語学力や教養を備え、健康や疾病に関する国際的視野を持ち、国際社会の一員として活動する。		社会医学基本実習	メンタルヘルスや疫学について学修する。	
						社会医学課題実習	地域医療や地域保健活動を実地の場で学修する。	
						臨床実習1	少人数グループで附属病院の全ての診療科・診療部を原則2週間ずつローテーションし、診療科によっては数日、教育関連病院での実習を学修する。	
						臨床実習2	附属病院及び教育関連病院で、6週を1つの単位として4つの希望する診療科でより実践的な実習を学修する。	
						地域医療実習	平成25年度より、1週間、クリニック等で地域医療最前線の現場を学修する。	
						医学英語	医学・生命科学に関する英文の著書や論文などを読解し、会話能力と国際感覚の向上を図る。	
						All English	ネイティブ外国人教員によるグループ学修を通じて、国際人としての語学力を学修する。	
		衛生統計・保健医療学	国際保健について学修する。					
		基盤系特別専門講義 臨床系特別専門講義	海外や最先端の論文・研究について、学術的視野から課題を自ら見だし、解決法を追求する。					
＜態度・技能・志向性＞								
3	医療プロフェッショナルリズム	・倫理観:教養を高め、豊かな人間性を涵養し、医師としての社会的責任を自覚して、自己の良心と社会の規範に従って行動し、基礎的な医療倫理問題に対処できます。 ・医師としての職責:多種多様な人間性と生命の尊厳について深い認識を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚しています。 ・患者安全:患者及びその家族の秘密を守り、患者の安全を最優先し、患者中心の立場で考えられます。	(1)医療人としての倫理観	医療人としての倫理に関する基本的な知識を修得し、それに沿って行動する。	A-1プロフェッショナルリズム	生命倫理学	生命や医療についての倫理学の基本を理解し、倫理観を涵養することを目的として、生命倫理学の歴史や動物倫理学について学修する。	・H30年度より開始した「行動医学テュートリアル」において、他大学の事例などを参考にしつつ、学修内容やグループワークの手法の見直しを継続して行う。 ・「医療安全テュートリアル」「臨床倫理テュートリアル」「プレ臨床実習テュートリアル」の学修内容やグループワークの手法の見直しを継続して行い、効果的なプロフェッショナルリズム教育の充実を図る。
			(2)研究者としての倫理観	研究倫理に関する基本的な知識を身に付けて、それに沿って適切な研究活動を行うことができる。		医学史	医学・医療の歩んできた長い道のりを現代の観点から検証し、未だ見ぬ将来の医学や科学の予見できる教養と倫理感を涵養する。	
			(3)利益相反と守秘義務	利益相反が生じる可能性を認識し適切に対処できる。患者のプライバシーを尊重し守秘義務を果たす。		医療人類学	病気とそのケア(医療を含む)の社会・文化的側面について理解し、さらに深められる教養と倫理感を涵養する。	
			(4)利他的・共感的かつ誠実な対応	患者および家族に対し、利他的・共感的に接しながら誠実に対応する。		医学入門(フレッシュマンセミナー)	1年生に行い、今後6年間にわたって医学を学ぶにあたり、強い動機を改めて獲得し、自らの将来像を形成する。	
			(5)責任感と自己規制	医師としての責任感を持ち、謙虚に自らを律して行動する。		医療安全学 医療安全テュートリアル	医療安全・医療事故事例の学修を通じて、医師としての職責や患者安全の基本を学修する。	
			(6)社会的責務	医師としての業務に限らず、医師・医療人としての責務および社会からの期待を意識し適切に行動する。		医療概論・倫理序説 臨床倫理テュートリアル	生命倫理、患者の基本的権利について学修する。	
			(7)患者安全	患者及びその家族の秘密を守り、患者の安全を最優先し、患者中心の立場で考えられる。		行動医学テュートリアル	行動科学・行動医学の学修を通じて、患者中心の医療の基本を学修する。	
			プレ臨床実習テュートリアル	患者中心の医療を実践し、症例の問題点や課題解決方法を学修する。				
			基盤医学系・社会医学系・展開医学系の実習・演習	実習・演習を通じて医療人としての態度・技能・志向性を学修する。				
		・他者と円滑にコミュニケーションを図り、相互尊重のもとに協調・共働してチーム医療ができます。また、目標実現のためにリーダーシップを発揮できま	(1)患者医師関係	患者や家族の心理・社会的背景を理解し、誠実な態度で適切な信頼関係を築くことができる。	A-4コミュニケーション能力	医学入門	医療現場におけるコミュニケーション能力と共感能力の重要性を学修する。	・「医学入門」において、高齢者施設体験訪問実習を行い、高齢者とのコミュニケーションのとり方や高齢者介護の方法の学修機会を継続して提供する。 ・「医療環境論」において、保健学科の学生と合同でグループワークを行い、協調性やリーダーシップを修得する機会として継続して提供する。LGBTに対する考え方や患者の権利や意思決定は、医療現場で医師や看護師が果たす役割に
			(2)コミュニケーションスキル	わかりやすい言葉を使いながら、冷静に思いやりを持って患者に安心感を与え癒すことができる。		医療環境論	保健学科の学生と共に、医学・医療をとりまく自然・社会・文化的環境について学修する。	
			(3)医療者間コミュニケーション	必要な情報を共有しながら正確な意思疎通を行い、医療チーム内の信頼関係を構築する。		医療安全学 医療安全テュートリアル	患者中心のチーム医療について学修する。	
			(4)インフォームドコンセント	患者の主体性を尊重しながら、医療行為の必要性・内容・危険性・他の選択肢等を患者に説明し、理解と納得に基づく同意を得る。		臨床医学序説	患者中心の医療の基本となる問題志向型診療計画や記録法を学修する。	
			(5)英語力	英語によるコミュニケーション能力を身に付け、情報収集・論述・国際交流ができる。		自己開発コース 修学論文テュートリアル	演習・研究体験を通じて医療人としての態度・技能・志向性を向上させ、コミュニケーション能力とチーム力を身につける。	

4	チーム医療力とコミュニケーション能力	す。 ・医療内容を分かりやすく説明する等、患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くことができます。 ・英語によるコミュニケーション能力を身に付け、情報収集・論述・国際交流ができます。	(6)多職種連携 (7)同職種連携 (8)リーダーシップ	医療チーム構成員それぞれの役割を理解し尊重しながら、患者中心の最良の医療・介護を提供するために連携することができます。 同僚や専門領域が異なる医師の業務を理解し、役割分担・情報共有・意思疎通・相談等を円滑に実行できる。 最良の医療を提供するために、構成員間の意見の相違や軋轢を調整し、円滑で効果的なチーム医療を先導する。	A-4コミュニケーション能力 A-5チーム医療の実践	多職種連携 臨床実習1 臨床実習2 医学英語 All English 基盤医学系・社会医学系の実習・演習	平成28年度より、病院が多職種連携の協力の元になり立っている現状を学修する。 少人数グループで附属病院の全ての診療科・診療部を原則2週間ずつローテートし、診療科によっては数日、教育関連病院での実習を学修する。 附属病院及び教育関連病院で、6週間で1つの単位として4つの希望する診療科でより実践的な実習を学修する。 医学・生命科学に関する英文の著書や論文などを読解し、会話能力と国際感覚の向上を図る。 ネイティブ外国人教員によるグループ学修を通じて、英語によるコミュニケーション能力を身につける。 実習・演習を通じて医療人としての態度・技能・志向性を身につける。	カや患者の様々な示教・思惑など、医学生・医療を取り巻く環境の変化にも柔軟に対応できるような医師となるための学修機会を継続して提供する。 ・「臨床実習」において、診療参加型実習の充実を図り、医療チームの一員として、患者・メディカルスタッフと接する機会を継続して行う。 ・H30年度より、医学科2年生を対象としたネイティブ外国人教員による「All English」を開講した。H31年度より医学科2、3年生に拡大する。 ・医学科2、3年生は、「All English」及び「医学英語1」を、医学科4、5年生は「医学英語2」を履修し、複数年に渡って英語に触れる機会を継続して提供する。
---	--------------------	---	------------------------------------	--	-------------------------------	---	---	--

5	自己開発力	・医学の修学に積極的に取り組み、生涯にわたり自己研鑽を続ける習慣を身に付け、医学・医療の変化や医師の社会的役割の変化に対応できる自己開発力を身に付けています。 ・ICT(Information & Communication technology)活用能力を持ちます。モラルに則り多様な情報を収集・分析して適正に活用する情報リテラシー力を身に付け、的確なプレゼンテーションなどに活用できます。	(1)生涯学習 (2)自己研鑽 (3)共同学習 (4)後進の育成 (5)ICT活用・情報リテラシー力	進歩し続ける医療において、常に最新・最善の医療を提供するために、生涯にわたり継続して学ぶ。 自身に対するフィードバックを受入れ、常に自らの知識・能力・振舞いを省察し、生涯にわたり自己の向上に努める。 提供する医療の質向上のために、同僚や関係者間で建設的なフィードバックを行い、共に教えあい学びあう。 後進の模範となるように、自身の態度や表情・雰囲気のもつ影響も十分認識しつつ、後進の育成に努める。 ICT(Information & Communication technology)活用能力を持つ。モラルに則り多様な情報を収集・分析して適正に活用する情報リテラシー力を身に付け、的確なプレゼンテーションなどに活用できる。	A-9生涯にわたって共に学ぶ姿勢	医学入門 医療概論・倫理序説 自己開発コース 修学論文テュートリアル 基盤系特別専門講義 臨床系特別専門講義 医療情報・EBM 医用統計学・医用AI学 システムバイオインフォマティクス データ科学と社会1・2 基盤医学系・社会医学系・展開 医学系の実習・演習	1年生に行い、今後6年間にわたって医学を学ぶにあたり、強い動機を改めて獲得し、自らの将来像を形成する。 医師として求められる基本的な資質・能力について学修する。 3年生で約半年設けており、各学生が興味のある教室で研究を行い、論文としてまとめ発表を行うことで、生涯を通じたリサーチマインドと自己開発力を涵養する。 海外や最先端の論文・研究について、学術的視野から課題を自ら見だし、解決法を追求する機会を学修する。 科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の必要性を学修する。 ICT活用能力とプレゼン能力の開発と、情報リテラシー力を学修する。 実習・演習を通じて生涯学習の基本を学修する。	・「医学入門」において、山口大学医学部附属病院見学実習を行い、実際の医療現場に触れることで、今後6年間にわたって医学を学ぶための強い動機を獲得する機会を継続して提供する。 ・「自己開発コース」、「修学論文論文テュートリアル」において、学生自らが時間的・精神的余裕をもって積極的に研究室や社会に飛び込み、実践研究活動を通じて、生涯を通じたリサーチマインドの涵養する機会を継続して提供する。 ・「医用統計学・医用AI学」、「システムバイオインフォマティクス」において、最新のICT活用能力や情報リテラシー力を学修する機会を提供する。
---	-------	---	--	---	------------------	--	---	--

<総合力・創造力>

6	科学的探究力	医学・医療の知識や技術の向上に貢献できる創造的な意欲を有します。自ら課題を発見・提起して、論理的に思考し、解決への道筋を提案します。成果を文書と口頭で発表できます。	(1)リサーチマインド (2)課題発見と問題解決 (3)研究成果の発表能力	基礎・臨床・社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を批判的に評価する姿勢を持ち、未知の病態や治療への興味・関心を維持できる。 医学・医療において既存の知識・技能では対応できない問題点を抽出し、それらを解決する過程に参画することができる。 研究の目的・方法・結果について解析および考察し、それらを適切な形で社会に発信できる。	A-8科学的探究	自己開発コース 修学論文テュートリアル 高度学術育成コース (SCEA/AMRA) open science club 細胞生理化学演習 生命医科学テュートリアル 統合医学テュートリアル 基盤系特別専門講義 臨床系特別専門講義 基盤医学系・社会医学系の実習・演習	3年生で約半年設けており、各学生が興味のある教室で研究を行い、論文としてまとめ発表を行うことで、生涯を通じたリサーチマインドを涵養する。 平成22年度より、選択科目として開始し、空いたコマを利用して、各学生が興味のある教室で最新の研究を行い、リサーチマインドを涵養する。 海外や最先端の論文・研究を調べ、学術的視野から課題を自ら見だし、解決法を追求して、発表することにより、リサーチマインドを涵養する。 海外や最先端の研究について、学術的視野から課題を自ら見だし、解決法を追求する機会を学修する。 実習・演習を通じて医療人としての総合力・創造力を学修する。	・「自己開発コース」では、平成28年度より“中間発表会”を導入し、平成30年度より“実験ノート”の配布を開始して、より研究活動を実質化した。また、研究・社会活動の出席、態度、理解力、到達度に関する評価、並びに自己開発コース発表会での発表内容や質疑応答等に関する多面的な評価(ルーブリック評価)を行っており、継続して行う。 ・「自己開発コース」では、国内外の研究室での研究活動を通して、科学的探究力の育成を行っている。さらに、「修学論文テュートリアル」では、修学論文の作成を通して、研究活動によって得られた結果を論文にまとめる力を養っている。「自己開発コース」及び「修学論文テュートリアル」は、山口大学医学部医学科の特徴あるリサーチマインドを涵養するユニットであり、継続して行う。
---	--------	--	---	---	----------	---	--	--

7	総合的診療能力	統合された知識・技能・態度に基づき、全身を総合的に診療する実践的能力を修得します。良好な医師患者関係を築けるコミュニケーション能力を有し、患者中心のチーム医療を安全に実践できます。(臨床推論力、基本的診療技能、実践的診療能力、医療安全力が必要)	(1)医療面接 (2)身体診察 (3)臨床技能 (4)診療録 (5)プレゼンテーション (6)救急医療 (7)慢性期医療 (8)患者への配慮 (9)感染対策 (10)安全管理 (11)医療の質 (12)実践的診療能力	患者の立場を尊重し、病歴を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行う。 網羅的に系統立てて効率的な身体診察を行い、所見を認識・記録し、適切な鑑別診断を行う。 基本的な臨床技能について、適応、実施方法、合併症等を理解し、適切な態度でこれを安全に実施できる。 診療録についての基本的な知識を修得し、問題志向型診療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。 患者の病状、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、医療チーム構成員と情報共有ができる。 緊急を要する病態や疾病・外傷の基本的知識を修得し、医療チームの一員として救急医療に参画する。 慢性疾患の病態・経過・治療を理解し、医療を提供する場や制度に応じて、医療チームの一員として慢性期医療に参画する。 患者の苦痛や感情に配慮しながら、患者と家族に対して誠実で適切な支援を行う。 医療関連感染の予防対策を実践し、発生時の初期対応ができる。 医療における患者や医療者の安全を守るために、個人的・組織的な対応ができる。 組織や自身が実施している医療の質や安全管理について常に振り返り、その改善と向上を図る。 統合された知識・技能・態度に基づき、全身を総合的に診療することができる。	A-3診療技能と患者ケア A-6医療の質と安全管理	医療安全学 医療安全テュートリアル 臨床実習入門 臨床実技基本実習 臨床推論基本演習 プレ臨床実習テュートリアル 医療情報・EBM 臨床倫理テュートリアル 行動医学テュートリアル 臨床実習1 臨床実習2 地域医療実習	医療安全、医療事故事案について学修する。 平成23年度より、臨床実習の前に行うことで、生涯にわたって必要となる真の臨床能力を学修する。 臨床推論能力を学修する。 科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の必要性を学修する。 患者の苦痛や感情に配慮しながら、患者と家族に対して誠実で適切な支援の在り方を学修する。 少人数グループで附属病院の全ての診療科・診療部を原則2週間ずつローテートし、診療科によっては数日、教育関連病院での実習を学修する。 附属病院及び教育関連病院で、6週間で1つの単位として4つの希望する診療科でより実践的な実習を学修する。 平成25年度より、1週間、クリニック等で地域医療最前線の現場を学修する。	・「臨床実習1」、「臨床実習2」において、学生にeYUME上で、“臨床実習で医学生として信頼され任される役割(EPA)”, “基本的臨床手技”, “臨床推論(実習で経験した症例や臨床推論を学んだ疾患名を記録)”を自己評価させることで、各学生が最終的な到達点の中でどの程度修得しているかを把握させるマイルストーンを本格的に開始する。 ・「臨床推論基本演習」において、診療録記載の手法に関する学修の強化などを継続的に見直す。 ・「臨床実習」において、mini-CEXを積極的に運用し、診療技能の形成的評価を行う体制の強化を図る。
---	---------	--	---	--	------------------------------	---	---	--